

2016年8月15日掲載

歯根のむし歯

歯周病の進行と関係

歯は歯ぐきから外に出ている部分（歯冠）と、歯ぐきの中に隠れている部分（歯根）に分けられます。

歯ぐきは年齢とともに痩せてくるため、見かけ上は歯が長くなったようになります。特に歯周病にかかると歯ぐきの退縮がいつそう進み、歯ぐきに隠れていた歯根が外に現れやすくなります。歯冠の表面はエナメル質に覆われていますが、歯根はセメント質が剥離し象牙質が露出してきます。エナメル質に比べて柔らかく表面がザラザラしているためむし歯にかかりやすくなります。

一般にむし歯といえば、ミュータンス菌によるものが知られていますが、歯根にできるむし歯を「根面う蝕」と呼び、原因となる菌はアクチノマイセス・ビスコーサスと呼ばれます。この菌はミュータンス菌とは異なりデキストラン（糖）が無くても歯根に付着し糖類を分解して酸をつくり、むし歯を進行させます。また歯冠を脱灰（溶かす）するPHは5.5ですが、歯根は6.5となっていますので、一層むし歯になりやすくなります。歯冠のむし歯は外から中に向かって縦に進行するのに対して、根面う蝕は歯と歯ぐきの境目に沿って横に進行して歯の周りを取り巻きます。歯冠部が健全な状態で残っているのに歯根部が環状にむし歯になったりします。

根面う蝕は、歯周病の進行した方に多く見受けられます。歯ぐきが退縮し歯根が露出してきたら注意が必要です。